

# 琉球大学学術リポジトリ

## プロフェッサー・オブ・ザ・イヤーを受賞して

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学大学グローバル教育支援機構 公開日: 2019-05-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 伊村, 嘉美 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/44535">http://hdl.handle.net/20.500.12000/44535</a>

## 1. はじめに

この度、栄えある「プロフェッサー・オブ・ザ・イヤー」を受賞できたことを大変光栄に思っています。履修された学生さん達、初めて「情報科学演習」を担当した時にシラバスや配布資料の作成に関してご助力いただいた仲村一郎先生、懇切丁寧な指導補助をしてくださったティーチング・アシスタントの宮城さん並びに関係各位に感謝いたします。

私は農学を専門としており、もともと、「情報科学」に関する素養はほとんどなかった者です。この「情報科学演習」に関してもまだまだ改善の余地が多くあり、今でも専門的な知識の不足を感じているのですが、昨年度この演習を担当して工夫したことや思ったことなどを述べさせていただきたいと思います。

## 2. 演習の準備

私が「情報科学演習」を担当することになりましたのは、約10年前に琉球大学に赴任した頃からです。私の所属している学科は4分野からなり、各分野輪番でこの共通教育科目「情報科学演習」を前期と後期に一コマずつ計二コマ担当しています。したがって、私はこの演習を毎年、毎学期行っているのではなく、数年おきに担当しており、今回で通算3度目となりました。毎回のことですが、この演習の準備を行う際に戸惑うことは、使用予定のパソコンのOSやアプリケーションプログラムのバージョンが前回担当した時よりバージョンアップし、操作方法や機能が変わることです。また、私が普段使っているパソコンのOSはMacですが、今回の「情報科学演習」で使用した教室のパソコンのOSはWindowsでした。そういうわけで、この演習を行うにあたっての最初の準備作業は、Windowsの使い方を思い出すことと演習に使用するアプリケーションプログラムのバージョンアップへの対応でした。

私の研究室に配属される学生の一部は、4年生になり卒業研究を本格的に始める頃になっても、文献検索、Excel等によるデータ集計、作表、作図、統計解析やPowerPoint等のプレゼンテーション用ソフトの使い方に未習熟であり、そのためにゼミ発表、卒業研究や卒業論文の作成等に苦労している例が見受けられます。「情報科学演習」の受講者は、基本的に1年生です。前述のような情報科学に関する技能をできるだけ早く身につけた方が、専門分野の勉強や卒業研究のみならず低年次におけるその他の共通教育科目の学習にも役立つと考えています。したがって、この「情報科学演習」において、図書館やインターネット環境を利用する情報検索、Wordによる文書作成、Excelによるデータ集計と作図およびPowerPointによるプレゼンテーションの4点については演習を重点的に行うことにしました。結果的に15回の授業のうち10回程度を演習に充てることになりましたが、それらの演習課題を用意するのに最も多くの時間を費やしました。例えば、Wordの演習においては、招待状や催し開催案内等の完成文書例（課題）と作成手順を配布資料として準備しました。演習においては学生に完成文書例と同じようなものを作成させるようにしましたが、できるだけ多くのアプリケーション機能を駆使しそれを習得させることができるような課題を工夫することに時間をかけたと思います。また、演習課題については、予めティーチング・アシスタントあるいは研究室の学生に試行していただき、彼・彼女らの指摘を参考に演習方法の改善に努めたつもりです。

## 3. 「情報科学演習」の支援体制

「情報科学演習」においては、パソコンが設置してある演習室を使用します。その機器類が充実していることは、この演習の教育効果を高めるために重要だと考えます。今回、学生用パソコンや教員用の危機に不具合が何度かありましたが、パソコン演習室担当の方々にはその都度迅速に対応していただきました。その他に以下に述べる二つの支援体制があったことも「情報科学演習」の教育に役立っていると感じました。

一つ目はティーチング・アシスタントの存在です。特に、課題演習を行う場合、学生間でパソコン使用の習熟度が大きく異なることから、進行についていけなかったり、誤操作やパソコンの不具合によって混乱に陥る学生がい

ました。今回の授業における課題演習中、ティーチング・アシスタントにはそういう学生に積極的にアドバイスするよう依頼しました。また、学生にも演習中はいつでも質問してもよいことにしました。学生は、私よりティーチング・アシスタントに対してより多く質問し、アドバイスを受けていたように思います。演習を進行しながら全ての学生に対処することは困難であり、教員一人で演習を予定通り進めながら教育効果を高める点でティーチング・アシスタントの存在がかなり役に立ったと思います。

二つ目は、図書館からの支援です。私は理系であるからかもしれませんが、文献検索といえば論文の検索しか行いませんが、今回担当した学生達は、論文検索だけでなく書籍の検索も行うであろう文系の学生でした。図書館の方に1回担当していただき、図書館の利用の方法、特に、文献検索の方法について講義していただいた中で、私の不得意な蔵書の検索や文献の取り寄せ方法などについて説明いただいたことは、大変助かりました。以上の二つ、ティーチング・アシスタントと図書館からの支援体制については、今後も充実していただきたいと思います。

#### 4. 課題提出および最終プレゼンテーションにおける事前・事後学習

演習課題については、その都度 Word 文書、Excel による集計結果、作成した図表、PowerPoint で作成した配付資料等の演習成果の提出を求めました。また、演習時間内に終了した場合でも課題を持ち帰り、次回の授業時に提出することを許可しました。さらに、演習課題によっては、演習時間内に終了できない場合もありました。例えば、Excel を用い入力データを集計しグラフを作成する課題においては、グラフの作成が完了しませんでした。そういう場合には宿題とし次の演習時までの提出を求めました。また、熱心な学生は演習時間内に完了した場合でも、宿題として自主的に持ち帰り、さらに洗練されたグラフを提出してくれました。これらのことが授業についてくることが困難な学生と習熟度の高い学生双方に対して事後学習の機会を与え、学習目標を達成させるためにいくらの効果を示したと思います。

履修生に対して最終課題としてプレゼンテーションを課しました。テーマを限定せず学生の自由な発想に任せましたが、プレゼンテーションツールとしてパワーポイントを用い、本演習で学習した文献検索、Excel によるデータ集計や図表作成のテクニック等をできるだけ幅広く駆使することを条件としました。テーマの決定、情報収集、プレゼンテーション資料の作成やリハーサル等の時間は授業時間のみでは不足したため、自宅における事前学習の課題と位置付けました。

成績評価においては、提出された課題と最終プレゼンテーションに重点を置き評価を行いました。したがって、事前・事後学習の成果も評価において考慮したことになったと思います。

#### 5. おわりに

今回受賞対象となった「情報科学演習」は昨年（2016年）前期に開講され、履修者数25名は全て法文学部の学生でした。これまでに私が行った「情報科学演習」における履修者数は約40名で、対象学生は全て農学部の学生でした。今回は、履修者があまり多くなかったことで個々の学生に丁寧に対応できたのかもしれませんが、また、履修者全てが自分の所属する学部以外であったために良い意味での緊張感を持って授業に臨めたのかもしれませんが、とはいえ、学生さん達から以前より著しく高い評価を得られたことは素直に嬉しく思います。

ついながら、最終プレゼンテーションについては、私の所属する農学部の学生を対象にした「情報科学演習」においても実施しておりましたが、今回文系の学生を担当し、学生が選ぶテーマのジャンルがバラエティーとオリジナリティーに溢れていた点やプレゼンテーションの話術の巧みさに感心しました。また、今回の「情報科学演習」のために準備した配布資料や演習課題は、研究室の情報科学に関して習熟度の低い学生の教育にも利用しています。そういう点で私にとっても今後の役に立つ貴重な経験になったと思っています。

最後に、このような拙い文章を寄稿させていただき機会をいただき感謝しております。私にとっては今後の「情報科学演習」への取り組み方を考え直す機会となりました。